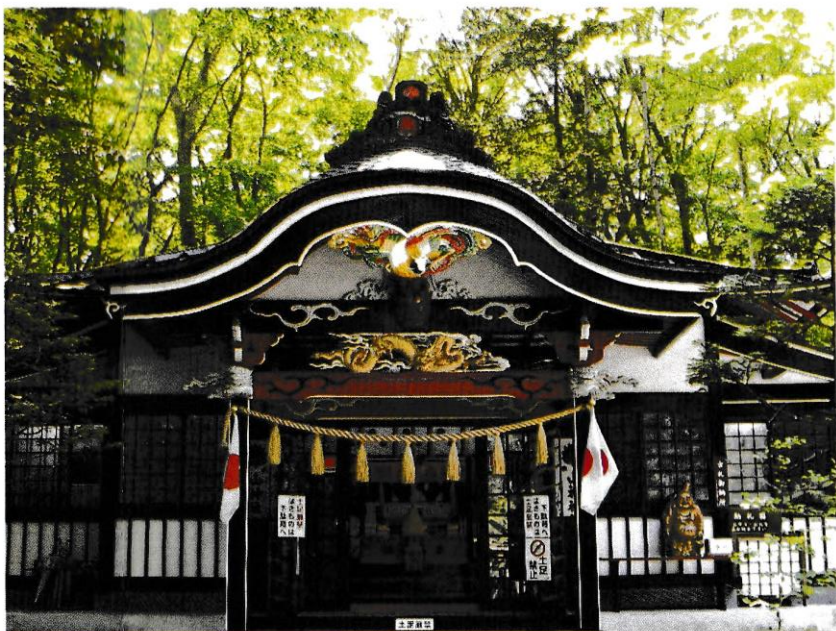


あらや やまじんじや
新屋 山神社



由緒沿革

後奈良天皇 天文三年（西暦一、五三四年）十月十七日の創建にして明治二十三年（西暦一、八九〇年）に幣殿本殿の御造営をなし、昭和九年（西暦一、九三四年）十月十七日本殿を再建、また、末社・浅間社、並びに、末社・大神社を合祀する。
 昭和四十八年（西暦一、九七三年）に拝殿を御造営し、現在に至る。

鎮座地

山梨県富士吉田市新屋四丁目 二一二

祭神

新屋の社叢林

おおよまつのみこと
 大山祇命
 あまごらまのおみか
 天照皇大神
このはなさくぐのめのみこと
 木花開耶姫命
 社叢林とは鎮守の森の別称であり神社を囲む森林のことです。
 当神社の社叢林は雁の穴丸尾溶岩流の上であり、富士北麓東部の代表的落葉広葉樹林で極めて貴重であることから、山梨県自然記念物に指定されています。
 この貴重な社叢林を後代へ残すべく、林内へ立ち入らない等環境保護にご協力をお願い致します。

例祭

十月十七日

御神石（お伺い石）



神様にお伺いを立てる（質問をする）石で、三回持ち上げて重さが変われば速やかに事が運ぶという不思議な石です。

奥宮（五月より十一月までのみ参拝可能）



霊峰富士の神山の二合目「へだの辻」（標高一、七〇〇M）に鎮座。霊験灼かにして不思議に諸願が成就し、神徳顕著もって往古から知られ県内外、遠近より数多の崇敬者が参拝に訪れております。

大山祇命は悠久幾千年国土・国民・一切生業の守護神（山神）として、植林・治水・農牧・漁猟・商工・土木・建築・海陸交通運輸・その他あらゆる殖産興業の途を授け、人間生活（衣・食・住）の根源を開拓された祖神である地神・海神兼備の神として信仰が厚く、全国壹萬余社に祀られております。神名の「つ」は「の」、「み」は神霊の意なので、即ち「おおやまつみ」とは「大いなる山の神」という意味であります。

和多数大神という別名もあり、「わた」とは海の古語であり海の神という側面ももっております。